よろこびの泉

わたし（イエス・キリスト）が与える水を飲む者はだれでも、決して渇くことがありません。わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠のいのちへの水がわき出ます。
（ヨハネ 4：14）

朝のあいさつ

河野　進

家庭で　道で　職場で
誰に会っても真っ先に
体じゅう明るくほほえんで
お早うございます
今日も健やかに生かされる喜びの確かめあいを
金も時間もかからず
一瞬の好意の贈物を
主イエスさまも祝福して下さる

河野　進詩集「萬華鏡」より

発行所 〒630-0266 奈良県生駒市門前町七―四〇 日本ミッション
電話〇七四三（七三）一七五四 振替口座〇〇九三〇―二―六六四二番
発行人 フアベイ・D
編集人 日本ミッション編集部
印刷所 〒350-0303 埼玉県比企郡鳩山町熊井一七〇
電話〇四九（二九六）〇七二七 新生宣教団印刷部
定価 一部 一年分 送料共 九〇〇円 一八円

質問室　問、高校卒業の日が来ました。就職試験を先生に勧められても関心が無く、仕事が決まらないまま学校を出ることになりました。将来の夢や目標もなく、誇れる特技や得意なスポーツもありません。今は誰にも会いたくありません。

答　「大きくなったら○○になりたい」と目を輝かせて夢を語ることは幼児でもいたします。六歳になる私の孫娘は「大人になったら通訳になる」と一生懸命です。英会話教室の同年齢の生徒の中で、先生と英語で対等に話せるのは孫娘ひとり。その意欲に上達も早く先生も驚いています。

今、卒業時、自分の進路を決めて社会に一歩踏み出すことが出来ない生徒が増えています。就職しても人間関係が築けず、すぐ辞めてしまう若者が少なくありません。「七・五・三」と言われ、折角就職できたのに、三ヶ月以内に離職する中学卒では七割、高校卒は五割、大学卒業生は三割だそうです。それもキャリアーアップの転職ではなく、人や仕事になじめず続けられないのです。

青年期は将来を夢見て困難に耐え、不得意を克服するまで頑張るものですが、現在はそんな粘り強さはなく、すぐにあきらめて投げ出してしまうのです。何か命令されると極度にプレッシャーを感じ、困ったことを職場の上司に相談するのではなく、携帯やスマホでどうしたら良いかと母親に助けを求めるそうです。少子化の時代、幼児期から甘やかされ、必要な物は求める前に与えられ、乏しさや逆境の中で苦労して必死で求めた経験が無いのです。

義務教育は国の責任において人に、生きていく基本的な知識、ものを読んだり書いたりする、計算が出来る、社会に適応して正しく生きてゆける知恵を身につけさせると言うことですが、教育が、知識の詰め込みが主となり、人間としての精神的成熟がなおざりになって、社会に出て困難に遭ったとき、冷静に受け止め対処していく知恵が生まれてこないのです。

人生には様々な困難が起こります。そんな時それを切り抜ける知恵。そんな知恵はどこにあるでしょうか。文字さえ読むことが出来ればそれを得ることが出来る。それが日本語の聖書です。

「私は、どんな境遇にあっても満ち足りることを学びました。私は、貧しさの中にいる道も知っており、豊かさの中にいる道も知っています。……あらゆる境遇に対処する秘訣を心得ています。」（ピリピ4・11～12）

どうか家に閉じこもらないで教会に行ってください。そして聖書を読み、どんな困難も最善に変えてゆく神の知恵によって救いと幸せを見いだしてください。

（児玉　博之）

親と子のしあわせ 381

4月になり我が家の長男は大学2年（名古屋在住）、長女は高校1年、次女は中学1年になりました。新しい生活の始まりです。

私の勤める幼稚園でも新しいお友だちが入園し、進級した子たちも張り切っています。はじめは泣いてばかりいる子も、しばらくすれば園生活を楽しむようになります。

「先生、見て。出来たよ。」「先生、僕も見てよ。」「先生、見ててね。」子どもたちは「見て」とよく言います。私は目が2つしかないので、1人しか見られずにいると「ね。見てなかった。見ててよ。いい。ちゃんと見て」と時々子どもたちに言われてしまいます。

お母さん方が園にいらしてたとき、ある子が「お母さん見てね。鉄棒出来るよ」と言うと、他の子も「私だって出来るから。お母さん見てて」と負けじと鉄棒をしていました。子どもたちは、見て、認めて、ほめてほしいと思っているのです。

我が家の子どもたちも小さかった頃、「お母さん、見ててね」とよく言いました。でも、私は子どもたちから、「お母さんは、見てると言いながら、見てないもんね」と言われたことが度々あり、思い出しても恥ずかしいです。大人は、忙しかったり、他のことで頭がいっぱいだったりで、見ているようで見ていない時があります。子どもたちも成長すると、いちいち「見て」とは言わなくなります。その時こそ見ないといけないのかもしれません。

長男が小学1年のとき、友だちの事で親も子も悩みました。学校の先生から電話があり、休み時間一人で図書室にいることを知りました。でも学校を休むとは言わず、がんばって行きました。心が一杯になったとき、長男は大泣きしました。その後だんだんと心も元気になり、状況も良くなって安心しました。

聖書に「あなたの羊の様子をよく知り、群れに心を留めておけ。」（箴言27・23）という言葉があります。見えることを見ることは大切ですが、見えないがんばりや、見えない悩みを読み取ることも大切だと思います。4月から5月にかけての時期、特に希望と不安でいっぱいの子どもたちをよく見て、一緒に話し、共感することを大切にしたいです。

（相原　幸紀美）

＊この「よろこびの泉」は、統一協会、エホバの証人、モルモン教のものではありません。
これらの問題でお困りの方は、上記の教会にご連絡ください。

私の救い主、私の神

大津市　礒田芳子

高校生の娘が友人に導かれてクリスチャンとなり、その娘の信仰をやめさせるために教会へ行った主人までもクリスチャンになりました。これほどに人を変えるキリスト教に驚きを覚えながらも、私には別の思いがありました。

▲生け花のお稽古のあとで

私は自然に恵まれた京都府の田舎に一九六一年生まれ育ちました。五人兄弟の末っ子で甘えてばかり。子供の頃から親について畑に行ったり母の手伝いをしたりと、友達と遊んだりするより家で穏やかな時間を過ごす方が好きでした。両親はある宗教を信仰していて、私も子供の頃から家族でお参りをしていました。

結婚――新しい世界

二三歳の時、大津で呉服商を家業としている主人と結婚しました。それは、それまでとは全く違う未知の環境で、二人の子供を授かりましたが、何もわからない家業を継いでいけるのだろうかと、朝目覚めた瞬間から不安が襲い、生活そのものも常にざわざわと落ち着かないものでした。世間知らずで何事にも無頓着に生きていた私に、無能で弱く心が醜い自分を見せ付けられる状況が多く自己嫌悪でいっぱいでした。主人との信頼関係も薄れていきました。

結婚するまで気づきませんでしたが、両親にも仕事や病など大変な時もあった筈なのに、愚痴や泣き言、人の悪口、非難の言葉を聞いた覚えがなく、仲の悪い様子が記憶にありませんでした。それは両親が信仰を支えとして生きていたからだと実感し、どの様な状況であっても不安や不満を数えず、幸いを数えていた母の姿を思い出し、私もそうでありたいと願っていました。

主人と娘がクリスチャンに

娘は高校生の時に友人に導かれてクリスチャンになりました。その娘が大学生の時、持病の上に骨折し、養生していた主人を加古川に呼び寄せて一緒に暮らし、教会に誘ったのです。主人はあらゆる宗教を否定し、心身共に病んでおりました。そんな頑なな主人を教会の皆様が温かく迎えて下さり、娘を励まし二人を支えて下さいました。

神を否定し娘をやめさせる為に通った筈の教会の賛美とメッセージに批判するものはなく、そこにあったのは神の実在と、鮮明なる悔い改めるべき自らの罪の姿だったそうです。二〇〇七年、主人はイエス様を信じてクリスチャンになりました。それは私にとっても喜びでした。

これほどに心を変える事ができるイエス様を信じたことに、教会の方々の中途半端ではないその信仰の深さに驚き、感謝しました。しかし、私には自分の信仰があり、それぞれが信じる神に仕える者であればいいと思っていました。

それから七年後の二〇一四年一二月、突然、娘から、子宮癌と診断された事を知らせる電話を受けました。私達がショックを受けない様に気遣い「大事な話するし……」と話出した声は落ち着いていました。結婚してから3年が過ぎ家族の皆んなが妊娠を待ち望んでいましたが、腫瘍は大きく子宮全摘出は避けられませんでした。多くの方々の祈りに支えられ年明け早々に手術を受け二ヵ月入院しておりました。私が病室で祈ろうとすると、娘は「イエス様がいて下さるから大丈夫」と私の祈りは断りました。いろいろ話をするうち、娘は私にイエス様だけに祈って欲しいと願っている事を知りました。悲しく思いましたが、私は両方の神様にお祈りすればいいと考えていました。

信じ切る祈りへと

ある日、娘の病室で三浦綾子さんの本を読んでいて次の文章が目にとまりました。「祈るという事は神との対話であるから、本当は、人と話すようにすればよいのである。だがそれは容易い事ではない。この世を創り自分を愛し、そして全てをご存知の方だという実感がなければ祈れるものではない。しかもその祈りを聞いて下さって、一番良い答えを下さるのだという確信がなければ、祈りは独り言に終わる。信じ切っていなければ到底祈れない。」と書かれてありました。

この言葉を読んだとき、娘はイエス様を信じ切っているからこのように支えられているのだと感じました。毎日娘と話す内に、娘の為に私の信仰に区切りをつけた方がいいのでは、と思い始めましたが、しかし、それがどうしても受け入れられません。答えが出せずに長い時間が過ぎましたが、娘がクリスチャンとして、天地を創造された神様への確信を持っている姿に、私の迷いは間違っていると考えるに至り、二〇一五年一月イエス・キリストを私の救い主、私の神と信じる決心をしました。

それから聖書ってどんな事が書いてあるのだろうと毎晩読みました。理解できなくても旧約聖書は興味深いものでした。120年を費やし箱舟を造ったノア、「ノアは、すべて神が命じられたとおりにし、そのように行った。」（創世記6・22）と書かれているところと、イサクを全焼の「いけにえ」として献げる様に神に命じられたアブラハムが、そのとおり神に従ったところは特に驚きでした。結果としてイサクは「いけにえ」にはされませんでしたし、ノアの箱舟も、舟の完成後、本当に大雨が降り大洪水が起こり示された通りになりましたが、未知の過程において、神の指示を絶対のものとして従うということがどうして出来たのだろうかと信じられませんでした。

従順に

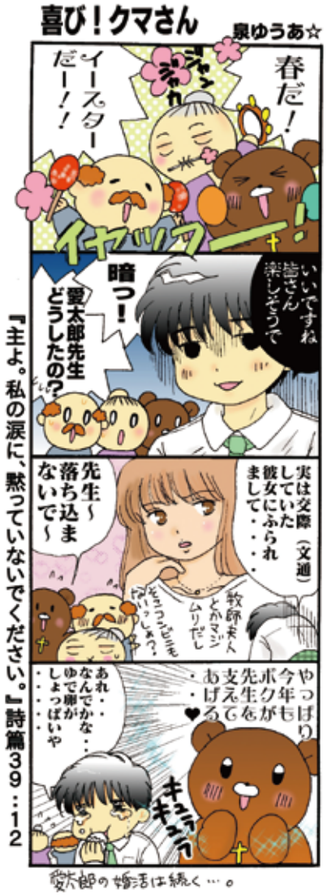
後日「神があなたに何かをするように言われる時、神にはその説明や理由を知らせる義務はありません。理解は後回しに出来ても従順はそうはいきません」という、どの本からかメモしていた従順の二文字が目にとまりました。聖書や多くの方々の本を読んでいくうちに、全知全能の主を信じ仰ぐ信仰には、疑念も戸惑いもないと知りました。更にイエス・キリストの十字架は、何の罪も犯されなかった方が、本来私が言う筈であった「神よ、お見捨てになるのですか。」という程の恥と裁きを自らに受け、私の身代わりに罰を受けて下さったのだということが解りました。

私は自分の浅はかな思慮で罪を重ねてきた事を自覚しました。否定され非難されると憎しみを持ちました。イエス様は、ご自分を裏切ったユダでさえ死を選ばず悔い改める事を望まれたと聞き、その愛の深さに驚きました。私自身も罪を赦されて生かされている存在であることを知るとき、イエス様に倣った生き方をしたいと思い、たとえ非難されても、イエス様が受けて下さった屈辱と苦しみに比べれば、こんな事、塵程にもないものだと思い煩わなくなりました。

神からの賜物

学びを重ね二〇一六年一一月八日ついにバプテスマを受ける事ができました。娘と主人を救って下さり、そんな事有り得ないと思っていた私をも引き寄せて、イエス様を主と告白できる者として下さった事を感謝致します。

「あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。」（エペソ2・8）

一四年前娘を教会に導いてくれた友人の存在がなければ、私達家族は今どんなに冷たく悲惨な状況にいる事でしょう。想像すると怖くなります。本当に今のこの平安は神の賜物です。

娘もすっかり快復し、イエス様に仕える者として働きが出来る様にと祈り、仕事が与えられています。主人も十年前には考えられなかった程に持病も落ち着き、早朝からの仕事に出掛けています。以前はお互い気持ちがばらばらでしたが、今は、週の初め、まず一緒に神様を礼拝し、聖書を学び、神に仕え喜ばれる生き方をと願い、同じ思いを持って祈り合える家族となれた事を深く感謝しています。